

専門の指導者が少ない状況下における組織的支援

～ 新潟県高体連ダンス専門部の取り組み ～

新潟県立加茂高等学校

古 田 裕 子

1. はじめに

近年、運動部活動を取り巻く環境は大きく変化している。働き方改革による活動時間の縮小や外部指導者への委託、少子化の影響等で教員の採用状況も厳しく、指導経験の無い部活動の顧問となる先生方も多い現状において、運動部活動の普及・発展のために、専門部としてどのような支援や取り組みが考えられるか、新潟県高体連ダンス専門部の活動内容やアンケート調査を元に考察する。

現在、ダンス部が高体連に所属している県は10県で、チアリーディング部として所属している県や、高文連に所属している県など様々である。新潟県では1990年に高文連から高体連に所属替えし、近年は同好会を含め21校、500名を超える部員数を維持し、全日本高校・大学ダンスフェスティバル（以下「全国大会」と略す）では13年間連続で受賞している。県内の中学校でダンス部が活動している学校は中高一貫校の3校のみで、ダンスやバレエ、新体操などを習い事として行ってきた生徒もいるが、部員の多くは高校に入学してからダンスを始めている。また、専門とする指導者の数は8名、そのうち現在実際に指導に携わっている指導者は6名（私立4校、公立1校）という現状において、新潟県の高校ダンス部の活動には高体連ダンス専門部という組織が大きく影響している。新潟県高体連ダンス専門部（以下「ダンス専門部」と略す）の活動を元に、運動部活動を取り巻く様々な問題に対して専門部の組織的な支援や取り組みについて研究を行った。

2. 研究の目的

本研究は、競技を専門とする指導者が少ない中で、部活動を普及・発展させるために、専門部が行うことができる組織的な支援や取り組みについて探るものである。ダンス専門部の活動について、各校顧問や生徒の声を聞き、成果や課題を明らかにし、今後の手立てを考え、組織的支援の例を提示することで、様々な運動部活動の普及・発展に向けた一助となることを目的としている。

3. 研究の方法

（1）ダンス専門部の活動状況

- ①近年の加盟校数、部員数の推移
- ②全国大会受賞歴
- ③活動内容 新潟県高体連主催、ダンス専門部が主管し、継続して実施している大会運営、生徒の講習会、指導者講習会、地域社会との連携

（2）各校顧問を対象としたアンケート調査

- ①実施期間 令和3年7月
- ②調査対象 ダンス専門部顧問及び副顧問（21校、49名）回答数 21校、38名
- ③調査内容 顧問の専門性、指導上困っていること、合同練習や合同公演の実施状況、地域社会との連携や公演状況、生徒の講習会と指導者講習会、外部指導者の活用状況について調査し、調査結果から専門部として対策が考えられる点や全体としての問題点について検討する。生徒の講習会では、令和3年3月の実践例から、実施状況や生徒の感想を元に成果や課題を挙げる。

4. 結果と考察

(1) ダンス専門部の活動状況

①近年の加盟校数、部員数の推移

年度	加盟校数	女子部員数	男子部員数	合計部員数
令和3年	21校	536名	21名	557名
令和2年	22校	539名	23名	562名
令和元年	21校	538名	22名	560名
平成30年	22校	573名	18名	591名
平成29年	24校	601名	32名	633名
平成28年	24校	572名	27名	599名
平成27年	23校	548名	26名	586名

加盟校数、部員数は平成27年に全国大会で1位2位を受賞した翌年から更に増加し、平成29年には24校で600名を超える部員数となった。平成30年以降は、学級減に伴い部活動が整理されるなどの影響もあり、加盟校数が21～22校に減少、560名前後の部員数となっている。また、県全体では女子生徒の運動部加入率が低い状況の中、ダンス専門部では一定の部員数を保っている。

②全国大会受賞歴

年度・回数	順位相当	受賞名	学校名
令和3年 第33回大会	ベスト8	特別賞	県立新潟南高校
令和2年	リモート作品等	参加校：県立新潟南高校、新潟明訓高校	
令和元年 第32回大会	ベスト8 ベスト8	特別賞 特別賞	新潟清心女子高校 新潟明訓高校
平成30年 第31回大会	ベスト4 ベスト16	神戸市長賞 準入賞	新潟清心女子高校 新潟明訓高校
平成29年 第30回大会	ベスト8 ベスト16 ベスト16	特別賞 奨励賞 審査員賞	県立新潟南高校 県立新潟中央高校 新潟明訓高校
平成28年 第29回大会	ベスト4 ベスト8 ベスト16	神戸市長賞 特別賞 審査員賞	新潟明訓高校 県立新潟南高校 県立新潟中央高校
平成27年 第28回大会	1位 2位	文部科学大臣賞 NHK賞	新潟明訓高校 県立新潟中央高校

毎年100校近くの参加で開催される全国大会には、本県ダンス部は平成3年の第4回大会から出場し、23カ年受賞、20回大会からは13年連続で受賞しており、22回、29回、30回大会では3校が受賞、最高賞の文部科学大臣賞は17回、28回の2大会で受賞している。今大会の他、近年、ダンスは中学校の体育授業での必修化やパリオリンピックの新正式種目として注目度も上がり、ジャンル別に全国規模の大会が開催されるようになっている。

③活動内容

大会運営（年2回）

- ・県大会 6月初旬に開催【資料1】

創作コンクール部門と参加発表部門の2部門に分かれ、創作コンクール部門は審査を行い、最優秀賞1校、優秀賞2校、審査員賞1～2校を選出する。最優秀校は県代表として全国大会に出場。審査員は、舞踊家、大学関係、芸術家など5名で、全国大会の審査員経験者など県外の方にも依頼する。参加発表部門は様々なジャンルの作品を発表し、審査員から講評を頂く。

- ・秋地区大会 11月初旬に開催

創作ダンスの部とその他のジャンルの部の2部門に分かれ、発表会形式で開催。審査は行わず、顧問がコメント用紙に一作品ずつ講評や感想を記入して各校に提出する。

生徒の講習会（年2回）

- ・6月中旬開催

内容：県大会後の新チームのスタートとして基礎的な体づくりが中心

講師：全国大会出場校や審査員を経験された大学の先生

- ・1～3月開催

内容：県大会、全国大会に向けた作品作りの基礎的・導入的内容が中心

講師：県内外の舞踊家（次年度の県大会の審査員候補となる）

指導者講習会（年2回）

- ・6月中旬開催

内容：生徒が受講する講習の指導者版として、講習内容の解説や指導法を提示していただく

講師：生徒の講習会と同じ講師

- ・12～1月開催

内容：照明、衣装、音楽の編集、バレエ、ヨガなど、生徒に還元できる内容

講師：各種各業界の専門家、専門学校の講師

地域社会との連携【資料2】

- ・Noism（新潟市劇場専属舞踊団）等、プロのダンサーによるワークショップの調整、案内
- ・各種イベント（新潟日報メディアシップイベント、ダンス部を卒業した大学生や社会人との合同公演等）の紹介や出演に向けた合同練習等の調整
- ・報道、メディア関係に大会情報や大会結果、イベント情報等を提供
- ・公的活動（2009新潟トキめき新潟国体開会式、2012北信越かがやき総体開会式2019第34回国民文化祭新潟ダンスの祭典）の演技指導、合同練習の調整

【資料1】 第74回新潟県高等学校総合体育大会
兼第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル
(神戸) 予選会 ダンスコンクール及び発表会
令和3年5月28日(金) 29日(土)



【資料2】 平成28年2月6日新潟日報
(平成27年8月の全国大会で1位2位を受賞)



(2) アンケート調査結果 (回答数 21校、38名)

①ダンスを専門として指導している

専門 6名 (16%) ・ 専門以外 32名 (84%)

②指導上困っていること

<主な対処法>

指導経験がなく技術指導が難しい、アドバイスができない	40%	・技術指導→ 外部指導者、合同練習 ・練習時間や場所→ 他の部活が使用しない時に体育館を使用、計画を立てて練習場所調整を行う。廊下など狭い場所でも正面を変えて練習する ・顧問の時間の確保→ 外部指導者 ・その他 → 定期的な個人面談や積極的に話しかけ生徒の様子を把握する、部活動ノートを使用する、常に目標を設定する、他校との合同練習など
練習場所が狭い、舞台のサイズで練習できない	20%	
練習時間の確保と学業の両立	13%	
校務分掌の関係や休日など、顧問の時間の確保が難しい	13%	
その他 (生徒任せのため生徒の負担が大きい、周囲の刺激がない、学級減による部員の減少)	14%	

技術指導については外部指導者に依頼している学校がほとんどであったが、指導時間、指導方針、生徒や保護者との関係など問題もあるようである。練習場所の不足は、専門の顧問がいない学校に多く、学業との両立や練習時間の確保は、進学校や合同公演を行っている学校、全国大会出場校で記載があった。

③合同練習、合同公演

行っている 9校 (43%) ・ 行っていない 12校 (57%)

<良い点>

<問題点>

他校から学びや刺激を受ける	35%	日程調整が難しい	39%
モチベーションアップになる	24%	作品や練習に時間がかかる	23%
競技力の向上につながる	17%	顧問の負担が大きい	15%
その他 (保護者の理解、生徒が企画運営、社会とのつながり)	24%	その他 (開催時期と目的の設定、保護者の負担、資金面)	23%

合同練習や合同公演では他校から刺激を受けることが多く、練習試合の無いダンス部では、技術の向上にも有効である。特に全国大会参加校の合同練習は受賞歴を見ても新潟県勢のチームワークと競技力向上に結び付いている。また、男子部員にとっては合同で作品を踊る機会となっている。その他、社会とのつながりや、企画運営を行い支える役割を体験し、感謝の気持ちも生まれている。一方、日程調整など顧問が抱える負担や作品づくりや練習による生徒の負担も大きい。

合同公演、合同練習を行っていない場合

今後行いたい 35% ・ 行いたいが難しい 41% ・ 必要ない 24%

<理由> 生徒の意識を高めるためには必要・技術が向上し、生徒が企画運営出来たらやりたい・人数が少なく負担が大きい・顧問の労働時間を考えると考慮する必要あり・学業との両立を考えると現在の活動にプラスすることは困難

④地域社会との連携、合同公演の状況（主な内容）【資料3】

施設訪問	病院・福祉施設での公演、保育園・小学校・中学校の公演
地域イベント	地元のお祭り、スポーツイベント（新潟シティマラソン、国際ユースサッカー大会など）、市民イベント、水と土の芸術祭、新潟総踊り
チャリティーイベント	24時間テレビ、東日本震災チャリティーイベント、世界国際エイズデー
商業イベント	新潟日報メディアシップダンスフェスティバル、CoCoLo新潟サマーフェスタ、セブンティーンアイスダンスコンテスト、新潟空港夏フェスタ
合同公演	新潟明訓高校ダンス部定期公演、同公演友情出演、バレエ教室やダンス教室との公演、TAY-C公演（ダンス部OBOGの大学生との合同公演）
公的活動	2009 新潟トキめき新潟国体開会式、2012 北信越かがやき総体開会式、2019 第34回国民文化祭新潟ダンスの祭典

現在、新型コロナウイルスの影響で中止となっているイベントもあるが、ほとんどの学校が地元のお祭りや地域のイベントなどでダンスを披露しており、ダンス部の活動の一部となっている。校外で公演を行うことで、地域の方々に周知して頂き、応援して頂いている。また、公演を見た中学生がダンス部に入部を希望して受験する例もあるようである。課題としては、日程調整や休日の引率など顧問の負担、練習時間が増えることによる学業との両立などがある。

【資料3】高校生ダンスフェスティバル～ビデオパフォーマンス～（新潟日報社企画、新型コロナウイルスの影響で中止となった県大会の代替事業としてダンス専門部共催、リモート作品を県内各地の商業施設等で放映）
令和2年7月19日（土）～9月30日（水）参加校 15校（希望制）



⑤生徒の講習会【資料4】

＜良い点＞

＜改善点＞

他校から刺激を受ける、技術向上につながる	76%	人数制限のため受講できない生徒がいる	55%
プロや大学の先生から直接指導を頂くことができる	14%	創作ダンスが中心となるため、ジャンル別に分けると良い	27%
その他（創作ダンスに触れる良い機会、普段と違う動きを発見し練習の取り組みが良くなる）	10%	当日のみの経験で、その後の活動や練習に効果的に繋ぐことができない	18%

現在、多くの学校が受講できるように、1校の参加人数の制限をしているが、多くの生徒に受講させたいという意見や、その後の練習に活かさないという改善点が挙げられた。すべての生徒の受講は難しいが、講習後に各校で伝達できるように、実践例を示すなどしていきたい。また、専門部としては、生徒に様々なジャンルのダンスを経験し、ダンスの世界を広げて欲しいという目的で講習会を実施しているが、創作ダンスについて難しいと感じる学校

や、ジャンル別の講習を希望する学校もあった。まずは現在の目的を周知して頂き、状況によっては生徒や各校の希望に合わせて目的や内容を再考することも必要である。

【資料4】感性を高め、創造力を広げるワークショップ～様々なダンスや表現方法を体験し、心と体の可能性を引き出す～
令和3年3月28日(日) 講師:ダンス専門部副部長 古田裕子 受講生徒:15校115名(午前60名、午後55名)各2時間半、希望制

ダンスW-UP
リズムに乗って踊る
良い動きとは何か
即興～オリジナルダンスへ～

体の窓
表現力や創造力を高める
体の可能性を広げる

ペーパーワーク
ものの特性を活かして動きやイメージを広げる

ランダムウォーク
自分を知る
相手に合わせる
相手を感じて動く

彫刻の庭
重力を感じる
体の声を聞く
空間の変化

シグナルウォーク
チームワーク
信頼
信じて動く、感じて動く

ミラー
動きを真似する
対極の動きを考える

竹の棒を使って動く
制限された中で
アイデアや発想を広げる

コピー
観察力、創造力を高める、発想の転換、新しい発見



<生徒の感想>

・他校と一緒に踊ることで色々吸収でき、自分もこうなりたい！と目標が持てた・全国大会に出ている学校の方の体の使い方や表現を見て学ぶことができた・このような機会をもっと増やして、他校や先生から学び、アドバイスをもらいたい・自分では思いつかなかったアイデアを発見し、できないことに挑戦できた・創造力が広がっていくのを実感できた・人によって感じ方や表し方が違ってそれぞれに良さがあった・相手を感じる大切さを学んだ・自分が芸術作品になったような、今まで感じたことのない心地良さを味わった・体を極限まで動かし、楽しんでやることでアイデアが浮かび、新たな発見があった・今までの自分では考えられないくらい、自由に大きく体を動かすことができた

⑥指導者講習会について

<良い点>		<改善点>	
専門的な指導を受け勉強になる	48%	専門性のハードルが高い	31%
指導に活かせる内容を学ぶことができる	21%	講師だけでなく内容も検討すると良い（他校の練習見学など）	31%
本質に触れる、世界が広がる	16%	受講者がもっと増えると良い	15%
その他（内容が十分工夫されている、新たな学びの意欲が持てる、技術不足を補える）	15%	その他（指導者や学校間の温度差がある、開催時期やアナウンス方法など見直しが必要）	23%

部会を通して先生方の声を聞き、内容を検討して実施してきたが、実際は専門性が高いと感じて参加をためらう顧問も多く、技術指導をしている顧問としていない顧問の両方が満足できる講習は難しいという声もあった。実技だけではなく、照明、衣装、曲の編集などの講習や実技と理論を組み合わせるなど工夫しているが、今後は専門以外の先生方の助けとなるように、アンケートの記載にあった他校の練習見学など、指導の参考になるような内容も検討したい。

⑦外部指導者について

外部指導者がいる 10校（48％） ・ いない 11校（52％）

<良い点>

<問題点>

専門的な技術指導をして頂ける	82%	指導時間、日数が限られる	37%
その他（校務の時も安心して任せられる、礼儀やマナー指導していただける、生徒の意識が上がる、休みが取れるようになり気持ちに余裕ができた）	18%	顧問や生徒、保護者との方針が異なる場合の対応	29%
		謝礼など経済的な問題	22%
		その他（大会引率の手続き、作品のどこまで頼って良いのか）	14%

⑦外部指導者について

外部指導者がいない場合

必要だと思う 58％ ・ 必要だと思わない、難しい 42%

<理由>

・ 基本的な動きの指導ができない・顧問が専門でない場合、技術面の指導者が必要・適任者がいれば検討したい・現顧問で本校の教育目標に即した指導が十分できているため必要ない・生徒自身が考えて作品づくりや練習を行うことが成長につながると考えるため必要ない・予算や勤務体系など検討事項が多い

外部指導者については利点と共に様々な問題点が挙げられた。専門部では大会役員の委嘱や会場での指導など、今後継続して検討する必要がある。

5. まとめ

ダンス専門部が行っている活動について、生徒の感想や顧問のアンケート調査から概ねその成果を見ることができた。一方で、専門部が企画、推奨する内容であっても、各校の活動状況により講習会の参加状況などに偏りがあることも明らかになった。今後、普及・発展に向けて検討する内容としては、地域社会との連携と各種講習会の充実が挙げられる。支援の方向性としては、イベントやワークショップに積極的に参加できるよう、専門の指導者がいない学校や技術レベルに不安がある学校に対して合同練習や技術指導を行う、生徒の講習会では目的と内容を周知し、状況に応じて開催時期やジャンル別の講習会を検討する、指導者講習会では他校の練習見学など、現在の生徒や顧問の手助けとなるような内容を工夫し、検討していきたい。ダンスは見る人の心を動かし、元気や希望を与えることができる。大会結果だけではなく、地域のイベントでダンス部の演技を見て進路を考え、入部を希望する中学生がいることや、地域の方々に応援していただいている現状から、今後も普段の活動とバランスを取りながら、地域とのつながりを大切に、講習会や合同練習では競技力向上と共に、生徒の意欲を高め、行動、挨拶、マナーなどを身に付けるができるように、専門部として支援したい。

今回の調査から、部活動を行う上で各校が抱える様々な状況が明らかになった。専門とする指導者が少ない状況においても、競技に関わるすべての生徒や顧問が充実した活動を行うことができるように、生徒や先生方の声を聞き、専門部ができる支援について継続して検討し、普及・発展につなげていきたい。